



松江土建 株式会社

事業内容

総合建設業

創業 昭和19(1944)年5月9日
 代表者 代表取締役社長 平塚 智朗
 社員数 192名(男165名 女27名)
 本社 島根県松江市学園南2-3-5
 電話 0852-21-3521

採用エリア(勤務地)

島根県全域、鳥取県西部地域

採用区分

新卒採用 キャリア採用

採用担当者からあなたへ

松江土建は、土木・建築工事などを通じ、経営理念に掲げる「そこに暮らす人々の幸福を追求する」企業活動を行っています。常に「感謝・敬意・称賛」の心を持ち、実践できるコミュニケーション力(=人間力)の高い仲間を求めています。地域に貢献するため、一緒に働きませんか!



常務取締役 総務部長 矢田 肇さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-21-3004

採用直通 E-mail

mdoken-somu@matsue-doken.co

公式サイトはこちら



求人サイトはこちら



現場でリスクアセスメント危険予防を担当 コミュニケーションの大切さを日々実感

さまざまな問題を抱えた家が、一流建築士のリフォームで生まれ変わる様子を紹介するテレビ番組を見たのが、建築業界に興味を抱いたきっかけだった。「当時小学生でしたが、家の課題が解決されて喜ばれている施主さんの姿がとても印象的でした。建築を通して、人に喜んでもらえるような仕事をしたいと思うようになりました」

現在は、松江市役所新庁舎2期工事でRKY(リスクアセスメント危険予防)などを担当。作業ごとにランク付けされた危険の程度に対し、作業員全員が具体的な予防対策を認識できる安全項目のチェックを行う。大規模工事とあって多い日には作業員が約60人にも及び、丁寧な気配りが求められる。周辺への工事の影響を確認する定期的な測量や、進捗状況の記録撮影も担当している。

工事には多くの協力会社が入っており、現場が変わって馴染みの顔と再会することも。「どの現場に行っても学ぶことが多く、コミュニケーションの大切さを実感しています」。趣味はカフェめぐり。「美味しい店があれば、県境だってまたいじやいます」と茶目っ気のある笑顔を見せる。



建築部工事課 曾田 みづきさん(23) 2022年入社



1 スタイリッシュなフォルムの本社社屋 2 秀でた技術力やデザイン力を実感できる開放的なエントランスホール 3 今年創立80周年を迎えた松江土建。7月には、くにびきメッセをメイン会場に大感謝祭を開催し、多くの人でにぎわった 4 非同族企業の松江土建。9代目平塚社長は同社の営業出身だ

まつえどけん 松江土建 株式会社

街、暮らし、未来を創る 地域密着の総合建設業

66 LEADING COMPANY

難工事に果敢にチャレンジ 福利厚生も業界トップ級

1944年の創業以来、市民生活の基盤を支える土木工事と付加価値の高い建築物工事を中心に、地域に密着した総合建設業を展開してきた《松江土建株式会社》。毎日のように車で通る幹線道路やトンネルから、松江市総合体育館や県立美術館などの各種建築物まで、島根県東部において同社が手掛けた事業を目にした日がないと言っても過言ではない。約10年前からは、土木・建築に次ぐ第3の柱として住宅事業もスタート。数々の大プロジェクトを実現させてきた技術力と経験を強みに、新分野にも果敢に挑んでいる。

現在建て替えを進める松江市役所新庁舎の建設主体工事も、他2社と共同で受注。地上6階地下一階建て、延べ床面積約2万5000㎡におよぶ大規模工事で、着工から約2年半後の昨春、南側部分の運用が始まった。平分ずつ壊して建てて引越すという大変な作業な上、免震工事も施す必要があり、過去経験したことがないようなチャレンジ」と息を吐く平塚智朗社長(66)。「ただ当社には、かつて大手ゼネコンが独占していたような難工事も担える実力があると自負しています。残り半分、

安全に納期までに仕上げられるよう全力を尽くします」。その横顔には、地元業界のリーディングカンパニーとしての誇りがにじみ出ている。建設業界のDX化が進む中、昨年デジタル技術を専門的に対応するIT・技術部を新設。既存部署をブラッシュアップさせた形で、現場支援も積極的に行っている。また、評価の透明性を高めた人事制度を導入。社員のモチベーションアップを図る一方、給与制度も見直して平均5%の昇給を実現した。

業界の常識にとられない働き方改革にも注力している。昨春から、県内業界でもいち早く完全週休2日制を導入。また、男性の育児休業取得を奨励しつつも、現場監督を担っていると取りにくい実情を踏まえ、従来の出産祝い金を大幅に加算した。一人目で20万円、4人目では50万円という破格の金額だ。

資材高騰や職人の減少など業界を取り巻く状況が厳しい中、平塚社長が声を大にして訴えるのが、業界全体の環境改善。「一体となって取り組まなければ建設業全体がダメになる」。一方、今後、社業発展の軸に据えるのは民間建築だ。「建築物に求められるレベルは以前より高く、大きくなっている。公共工事で培ってきた技術力を生かしていきたい」

国が発注した大型工事の一端担う ICTシステム活用し、効率的業務を

今春から、斐伊川放水路事業による神戸川築堤工事の影響で地盤沈下が発生した、現場周辺の軟弱地盤対策工事に携わっている。「連れ込み沈下を防ぐための鋼矢板を打設にするのですが、場所によっては地盤が硬くて入らなかったり、天候に左右されて工程通りに進まなかったり、うまくいかないことも多くて四苦八苦しています」と苦笑する。

現場の施工管理や発注者の立会い検査のための資料作成などを担当。毎日のように猛暑日が続く中、現場の作業員の安全確保も重要な任務の一つだ。冷風機やスポットクーラーを設置したテントを張って随時休憩を促したり、飲み物を配ったりして熱中症対策に注力する。

「何も無いところから物ができ上がっていくのが、この仕事の醍醐味。現場の作業は大変ですが、年々できることが増え、ものづくりの楽しさをより感じられるようになってきました」。ICT測量システムなども使いこなし、効率的に業務を進めている。今年は、受験資格を得た2級土木施工管理技士の試験に挑む予定。休日、趣味の海釣りを楽しまつつ、勉強に費やす時間も増えそうだ。



土木部工事課 安倍 凌介さん(22) 2022年入社

